

【原著】

CEFR-J の学習者向け英字新聞に対する有効性の研究

八 島 等

A Study on the Effectiveness of the CEFR-J Wordlist
with Regard to English Newspapers for Learners

Hitoshi Yashima

概 要

昨年までの3年間、CEFR-Jで示されているA1からB2までの語彙が一般紙の英字新聞でどの程度用いられているのかを調査した。その結果、CEFR-Jの収録語以外の語が約14-18%もあり、CEFR-Jの有効性に疑問が残った。そこで、その延長の研究として、CEFR-Jで示されている語彙が学習者向け英字新聞ではどの程度用いられているのかという調査をした。すると、A1が約29-32%、A2が約22-23%、B1が約20-24%、B2が約12-13%、それ以外の語が約10-12%であった。この結果、学習者にとって、学習者向けは一般紙よりは読みやすいが、やはりCEFR-Jの有効性に疑問が残ることがわかった。しかし、CEFR-Jの語の出現頻度は頁により率にすると約92-4%であった。出現頻度の場合、CEFR-J収録語以外の語の中には、品詞違い語や派生語が約32-37%含まれているので、実際のCEFR-Jの語の出現頻度は約94.7-96.0%以上なので、「最低限の」語彙カバー率であると言える。

研 究 動 機

9年前に、日本人英語学習者（高校生）にとって文脈からの意味推測のために「最適な」未知語の割合を求めて、50語、60語、80語、100語に1語という4つの割合で調査した。その結果、100語に1語（99%の語彙カバー率）の場合、語彙サイズが3,000語（word family）程度あれば、平均で60%以上の、4,000語程度あれば、平均で80%以上の、それぞれ推測成功率が得られることがわかった。また、80語に1語（98.75%の語彙カバー率）の場合でも、語彙サイズが4,000語程度あれば、推測成功率は平均で80%以上であることがわかった（八島, 2013）。3,000-5,000語は「一生懸命努力すれば、学習者にとって達成可能であるように思われる」（Schmitt, Jiang, & Grabe, 2011）語数である。以上のことから、日本人英語学習者にとって「最適な」未知語の割合は、100語に1語（語彙カバー率99%）であることがわかった。

また、7年前、読解に関して、98%以上の語彙カバー率の題材の内容を、どの程度理解することができるのかを調査した。その結果、学習者には、98%の語彙カバー率は「最適な」ものとは言えないことが判明した。語彙カバー率が99%の場合のみ、平均で60%以上の読解問題の正答率を得ることができた（八島, 2015）。

以上の2つの研究から、日本人英語学習者にとっては、99%の語彙カバー率が必要であると

考えられる。この99%という値は、Carver (1994) を支持するものと言える。Carver (1994) は、小学生及び大学院生の英語母語話者を対象とした研究により、題材が比較的易しい場合、未知語はほぼ0%であり、題材が比較的難しい場合、2%以上が未知語であり、題材の難易度が読み手の能力にほぼ一致している場合には、約1%が未知語であると指摘している。このことを語彙カバー率に当てはめてみると、母語の場合でも、99%が適切な語彙カバー率であると考えられる。従って、日本人英語学習者にとっても当てはまるということは当然であろう。

では実際に、日本人英語学習者はその99%の語彙カバー率に達するために、どのような語を何語程度習得すればよいのであろうか。そこで参考となるのが、最近注目を集めている欧州評議会 (Council of Europe) が2001年に公表した言語能力の到達度指標である Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment (学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠)、略称、CEFRである。英語に限らず、外国語に関する言語能力をA (基礎段階の言語使用者)、B (自立した言語使用者)、C (熟達した言語使用者) の3つのレベルに大きく分け、それをさらに、A1・A2、B1・B2、C1・C2の合計6段階のレベルに分けて表している。

そのCEFRを日本に導入するために構築されたのがCEFR-Jである。そのプロジェクトの中で、CEFR-J Wordlistが作成され、現在はVersion 1.6で、A1は1,166語、A2は1,411語、B1は2,445語、B2は2,779語の合計7,801語が収められている (投野 (2020) では「語」ではなく、「項目」となっている)。

それでは、日本人英語学習者 (高校生) の英語学習の基盤となる検定教科書の中で、CEFR-Jに収められている語がどの程度用いられているのかということが疑問となり、3年かけて、改訂版の1～3年生用の上級の検定教科書から採択部数の多い3冊を選び調査した。その結果、レベル別分布状況は、1冊ずつでは、A1が約17-24%、A2が約16-20%、B1が約19-22%、B2が約11-13%、それ以外の語が約23-32%であり、3冊の合計では、A1が13.39%、A2が13.69%、B1が20.01%、B2が14.03%、それ以外の語が38.88%であった。3冊の合計となると、A1の収録語が少ないので、全体における割合は少なくなってしまうが、1冊ずつで見ると、多い順に、B1、A1、A2、B2という分布状況であった (1冊のみA1、B1、A2、B2の順)。また、レベル別カバー率は、1冊ずつでは、A1が約79-86%、A2が約57-64%、B1が約34-49%、B2が約16-25%であり、3冊の合計では、A1が93.56%、A2が78.74%、B1が66.41%、B2が40.96%であった。検定教科書には、A2が予想外に出現しないことがわかった (八島, 2019)。

検定教科書での研究の延長線上に位置する研究として、英字新聞 *The Japan Times* の一週間分 (日曜版は形式が違うので研究対象から除外) の中で、CEFR-Jに収められている語がどの程度用いられているのかという調査を総異なり語のレベル別分布状況とレベル別出現頻度の観点から行った。その結果、レベル別分布状況は、1日分ごとに、A1が約20-22%、A2が約19-21%、B1が約25%、B2が約17-18%、それ以外の語が約14-18%であった。1日分ごとに見ると、多い順に、B1、A1、A2、B2という分布状況であった (ある1日のみ、B1、A2、A1、B2の順)。この結果は、上記の検定教科書の分布状況と同じであることがわかった。また、レベル別出現頻度は、1日分ごとに、A1が約60-61%、A2が約13-14%、B1が約11-12%、B2が約6-7%、それ以外の語が約8%であった。レベル別分布状況の観点からみると、CEFR-Jの英字新聞に対する有効性に疑問が残った。しかし、レベル別出現頻度の観点からみると、92%のカバー率となり、さらに、すべてのそれ以外の語のうちの35.74%がCEFR-Jの収録語の品詞違い語や派生語なので、実際のCEFR-Jの収録語以外の語の出現率は5.14%以下となり、Laufer & Ravenhorst-Kalovski (2010) が提唱する「最低限の」(minimal) 閾値である95%とほぼ一致することがわ

かった(八島, 2021b; 付録A, B)。

研究目的

本研究の主な目的は、CEFR-Jに収められている語がどの程度、学習者向け英字新聞で用いられているのかを調査することである。上記の通り、英字新聞の一般紙に対するCEFR-Jの有効性に疑問を感じたために、学習者向け英字新聞でのCEFR-Jの収録語の有効性とCEFR-Jの収録語以外の語の出現率を調査した。

研究方法

使用テキスト

使用したのは許可を得てダウンロードをした東京外国語大学投野由紀夫研究室の『CEFR-J Wordlist Version 1.6』と購入した*The Japan Times Alpha* 2021年11月5, 12, 19, 26日, 及び12月3日分である。

CEFR-J Version 1.6には上記の通り、A1～B2までの7,801語が収められている。その7,801語と学習者向け英字新聞で用いられている語との対応を調査した。本研究では、CEFR-Jの特徴に従って、固有名詞は月や曜日など一部を除いて研究対象から除外した。

研究手順及びデータ分析の方法

学習者向け英字新聞をスキャナーで取り込み、Webで公開されている、関西大学の水本篤先生が作成されたNew Word Level Checkerにかけた。その上で、再度、CEFR-J Wordlist Version 1.6と対照し、1語1語レベルの確認をして、品詞違い語、派生語の選定を行った。但し、固有名詞は月や曜日など一部を除いて入力対象から除外した。CEFR-JのA1, A2, B1, B2の各レベルにおいて、学習者向け英字新聞では何語用いられているのか、また、CEFR-Jに載っていない語が何語あるのかを調べ、総異なり語のレベル別分布状況を調査した。さらに、総異なり語のレベル別出現頻度を調査した。出現頻度の調査においては、CEFR-Jの収録語以外の語の中に、CEFR-Jの収録語の品詞違い語や派生語が含まれる。この分布状況と出現頻度という2つの観点から、CEFR-Jの有効性を検証した。

結果

学習者向け英字新聞の使用語彙のCEFR-Jのレベル別分布状況

A1からB2及びそれ以外の語の分布状況を見ると、5日分の学習者向け英字新聞のいずれも、似たような状況になっている。すなわち、A1が約29-32%、A2が約23-24%、B1が約20-24%、B2が約12-13%、それ以外の語が約10-12%をそれぞれ占めている。このことから、5日分の各レベルが占める割合の違いは最大でも約4%にとどまっていることがわかり、記事内容の違いにかかわらず、レベル別分布状況に違いはほとんど生じないことがわかった。また、A1からB1までで約76-78%と全体の4分の3以上を占めていることもわかった。さらに、12月3日分を除き、多い順に、A1, A2, B1, B2, それ以外の語という順序になっていることもわかった。12月3日分のみ、多い順に、A1, B1, A2, それ以外の語, B2という順序であった。このことから、各レベルが占める割合の順序の違いもほとんどないことがわかった(表1～5)。

表 1

The Japan Times Alpha 11月5日分の CEFR-J のレベル別分布状況

	CEFR-J 収録語	品詞違い語	派生語	合計	割合 (%)
A1	592語	17語	6語	615語	32.32
A2	424語	10語	12語	446語	23.44
B1	389語	12語	21語	422語	22.18
B2	204語	14語	16語	234語	12.30
それ以外の語				186語	9.77
合計	1,609語	53語	55語	1,903語	

表 2

The Japan Times Alpha 11月12日分の CEFR-J のレベル別分布状況

	CEFR-J 収録語	品詞違い語	派生語	合計	割合 (%)
A1	572語	16語	11語	599語	30.55
A2	445語	8語	15語	468語	23.87
B1	409語	5語	19語	433語	22.08
B2	216語	10語	17語	243語	12.39
それ以外の語				218語	11.12
合計	1,642語	39語	62語	1,961語	

表 3

The Japan Times Alpha 11月19日分の CEFR-J のレベル別分布状況

	CEFR-J 収録語	品詞違い語	派生語	合計	割合 (%)
A1	582語	19語	13語	614語	31.88
A2	441語	7語	14語	462語	24.00
B1	366語	8語	15語	389語	20.20
B2	208語	17語	21語	246語	12.77
それ以外の語				215語	11.17
合計	1,597語	51語	63語	1,926語	

表 4

The Japan Times Alpha 11月26日分の CEFR-J のレベル別分布状況

	CEFR-J 収録語	品詞違い語	派生語	合計	割合 (%)
A1	601語	22語	7語	630語	30.42
A2	451語	11語	12語	474語	22.89
B1	446語	9語	18語	473語	22.84
B2	218語	19語	21語	258語	12.46
それ以外の語				236語	11.40
合計	1,716語	61語	58語	2,071語	

表 5

The Japan Times Alpha 12月3日分の CEFR-J のレベル別分布状況

	CEFR-J 収録語	品詞違い語	派生語	合計	割合 (%)
A1	598語	16語	8語	622語	29.23
A2	455語	12語	16語	483語	22.70
B1	471語	15語	27語	513語	24.11
B2	221語	7語	26語	254語	11.94
それ以外の語				256語	12.03
合計	1,745語	50語	77語	2,128語	

CEFR-J 収録語の品詞違い語や派生語に関しても、品詞違い語は40～60語程度、派生語は60～80語程度、合計で100～130語程度と日にちによる大きな差は見られないことがわかった。特に、12月3日分を除くと、品詞違い語は39～61語、派生語は55～63語、合計で101～119語と日にちによる差はさらに小さくなることがわかった（表1～5）。

学習者向け英字新聞の使用語彙の CEFR-J のレベル別出現頻度

A1からB2及びそれ以外の語の出現頻度を見ると、5日分の学習者向け英字新聞のいずれも、似たような状況になっている。すなわち、平均値では、A1が約69-71%、A2が約12-14%、B1が約8-12%、B2が約4%、それ以外の語が約6-8%にそれぞれなっている。このことから、5日分の各レベルの出現頻度の違いも上記の分布状況と同様に最大でも約4%にとどまっていることがわかり、記事内容の違いにかかわらず、レベル別出現頻度に違いはほとんど生じないことがわかった。また、A1からB1までで約88-90%と全体のほぼ9割を占めていることもわかった。さらに、5日とも、出現頻度が多い順に、A1、A2、B1、それ以外の語、B2という順序になっていることもわかった。このことから、記事内容の違いにかかわらず、各レベルの出現頻度の順序の違いもまったくないことがわかった（表6～10）。

レベル別出現頻度の場合、CEFR-J 収録語以外の語の中には、品詞違い語や派生語が含まれており、表1～5から、その割合は約32-37%である。約6-8%であったそれ以外の語のうち、CEFR-J 収録語に関わらない語の出現頻度は、約4.0-5.3%以下と考えられる（表6～10）。

表6
The Japan Times Alpha 11月5日分の CEFR-J のレベル別出現頻度 (%)

	最低値	最高値	平均値
A1	54.29	85.95	69.66
A2	6.49	19.93	12.53
B1	3.24	13.73	7.95
B2	1.08	7.39	3.50
それ以外の語*	3.17	10.00	6.35

注. *それ以外の語の中には品詞違い語や派生語が含まれている。

表7
The Japan Times Alpha 11月12日分の CEFR-J のレベル別出現頻度 (%)

	最低値	最高値	平均値
A1	55.83	84.83	71.18
A2	3.93	20.95	14.09
B1	2.17	15.63	9.53
B2	0.00	12.50	4.43
それ以外の語*	1.56	10.93	6.52

注. *それ以外の語の中には品詞違い語や派生語が含まれている。

表8
The Japan Times Alpha 11月19日分の CEFR-J のレベル別出現頻度 (%)

	最低値	最高値	平均値
A1	54.60	85.19	69.94
A2	5.41	20.45	13.52
B1	1.35	12.38	8.60
B2	1.12	10.34	4.10
それ以外の語*	1.56	14.07	6.56

注. *それ以外の語の中には品詞違い語や派生語が含まれている。

表9

The Japan Times Alpha 11月26日分の CEFR-J のレベル別出現頻度 (%)

	最低値	最高値	平均値
A1	58.24	84.13	70.80
A2	7.27	16.93	12.71
B1	3.70	13.92	8.72
B2	2.11	9.41	4.11
それ以外の語*	2.91	11.11	6.15

注. *それ以外の語の中には品詞違い語や派生語が含まれている。

表10

The Japan Times Alpha 12月3日分の CEFR-J のレベル別出現頻度 (%)

	最低値	最高値	平均値
A1	44.74	79.89	69.22
A2	5.75	14.60	12.49
B1	1.35	26.97	10.39
B2	0.99	10.00	3.99
それ以外の語*	3.46	14.40	7.94

注. *それ以外の語の中には品詞違い語や派生語が含まれている。

CEFR-J 収録語以外の語の特徴

CEFR-J 収録語以外の特徴を見ると、やはり、辞書で低頻度語と定義している語が圧倒的に多い。接頭辞や接尾辞 -er の多用、正式語や新語、専門用語などと、特徴を挙げることはできるが、その多くは低頻度語である。従って、CEFR-J 収録語以外の語の大きな特徴は、低頻度語でかつ、接頭辞や接尾辞 -er の多用、正式語や新語、専門用語などと言った方が正確と言える。

しかし、CEFR-J 収録語以外の語の中には、日本で出版されている主要な英和辞典や LDOCE などの英英辞典で重要語と定義されている語が含まれている。表に挙げた重要語はいずれも高等学校の検定教科書に出現する語である (表11)。

表11

The Japan Times Alpha 5日分の CEFR-J 収録語以外の語の特徴の例 (八島, 2022a)

特徴	例
接頭辞の多用	<u>counterterrorism</u> ; *intraparty; <u>multimillion</u> ; *nonconform; <u>restart</u> ; <u>transcontinental</u> ; <u>unintended</u>
接尾辞 -er の多用	<u>automaker</u> ; *bombmaker; <u>dispatcher</u> ; <u>theatergoer</u> ; <u>whistleblower</u>
正式語	<u>confection</u> ; <u>designation</u> ; <u>expiry</u> ; <u>incapacitate</u> ; <u>inalienable</u> ; <u>unquestionably</u>
新語	*coronavirus; *telework
専門用語	<u>anesthesia</u> ; <u>bumblebee</u> ; <u>helium</u> ; <u>lotus</u> ; <u>mastodon</u> ; <u>postpartum</u> ; <u>therapeutics</u>
英和辞典での重要語	**cart; **equivalent; **lens; **magnet; **nest; **pat; **poll; **sacrifice
低頻度語	<u>assassination</u> ; <u>baguette</u> ; <u>chocaholic</u> ; <u>excavation</u> ; <u>lampshade</u> ; <u>ratchet</u> ; <u>skeptic</u> ; <u>temblor</u>

注. 下線を引いた語は低頻度語である。

*は主要英和辞典に未収録の語である。

**は LDOCE (6th ed.) で最重要9,000語のうちの上位6,000語までの語である。

考 察

学習者向け英字新聞の使用語彙の CEFR-J のレベル別分布状況

まず、A1から B2及びそれ以外の語の分布状況に記事内容や日にちの違いによる差が見られないということがわかった。頁によって差が生じることはあるが、一日分を通してみると、レベル別分布状況に大きな違いがないということである。このことは一般紙にも言えることである。また、A1から B1までで約76-78%と全体の4分の3以上を占めていることもわかった。その上、12月3日分を除き、各レベルが占める割合が、多い順に、A1, A2, B1, B2, それ以外の語という順序になっていることもわかった。このことから、学習者向け英字新聞はその名の通り、学習者にとって読みやすいものとなっていることがわかった。例え CEFR-J の収録語だからといっても、B2レベルは学習者にとってはかなり難しい語が多数を占めており、その語の派生語もまた難しい語である。従って、A1が一番多くの割合を占めて、かつ、B1まででほぼ8割を占めるということは、学習者にとって読もうとする意欲が損なわれるということはないと思われる。それに対して、一般紙の方は、前述のように、各レベルが占める割合が、多い順に、B1, A1, A2, B2, それ以外の語という順序になっている場合が大半である。さらに、A1から B1までで約65-67%と全体の7割を切ることから、学習者にはかなり難しいと感じるものと考えられる(付録 A)。

次に、CEFR-J の有効性について見てみると、CEFR-J の収録語以外の語は約10-12%ということで、語彙カバー率は約88-90%ということになり、有効性に疑問が残る結果となった。先行研究から最低でも95%、できれば、99%の語彙カバー率が必要なことがわかっているため、学習者向け英字新聞でのこの数値は意外なものであった。一般紙では、CEFR-J の収録語以外の語が約14-18%であったことを考えると、読みやすいものであることがわかるが、1割程度が未収録語となると、仮に CEFR-J の収録語を全部覚えたとしても、学習者向け英字新聞であっても、「適切な」読みは難しいことになる。

学習者向け英字新聞の使用語彙の CEFR-J のレベル別出現頻度

まず、A1から B2及びそれ以外の語の出現頻度も、分布状況と同様に、記事内容や日にちの違いによる差が見られないということがわかった。頁によって差が生じることはあるが、一日分を通してみると、レベル別出現頻度に大きな違いがないということである。このことは一般紙にも言える。また、A1から B1までで約88-90%と全体のほぼ9割を占めていることもわかった。さらに、5日とも、出現頻度が多い順に、A1, A2, B1, それ以外の語, B2という順序になっていることもわかった。前節でも述べたように、CEFR-J の収録語以外の語の大半や B2は学習者には相当難しいので、A1から B1までで全体のほぼ9割を占めているということは、学習者にとって読みやすいものとなっていることを示していると考えられる。それに対して、一般紙の方は、前述のように、出現頻度が多い順に、A1, A2, B1, それ以外の語, B2という順序になっており、学習者向け英字新聞と同様である。しかし、A1から B1までで約85-86%と、学習者向け英字新聞よりも3-5%低い占有率となっている。研究動機のところで示した通り、語彙カバー率が1%違うだけで、未知語の割合は大きく異なってくる。従って、3-5%違えば、学習者にはかなり難しいと感じるものと予想される(付録 B)。

次に、CEFR-J の有効性について見てみると、CEFR-J の収録語以外の語は約6-8%ということで、語彙カバー率は約92-94%ということになり、有効性に疑問が残る結果となった。出現頻度の場合には、CEFR-J の収録語以外の語の中に、CEFR-J の収録語の品詞違い語や派生語も含ま

れている。その割合は、約32-37%であるので、実際の CEFR-J の収録語以外の語の出現頻度は約4.0-5.3%以下と考えられる。以下と書いたのは、出現頻度が2回以上の可能性もあるからである。この結果、CEFR-J の収録語の語彙カバー率は、約94.7-96.0%以上ということになった。前節でも述べた通り、先行研究から最低でも95%、できれば、99%の語彙カバー率が必要なことがわかっているので、学習者向け英字新聞でのこの出現頻度における数値も意外と低いものであった。一般紙では、CEFR-J の収録語以外の語が約8%であったことを考えると、読みやすいものであることがわかるが、「最低限の」語彙カバー率に過ぎず、仮に CEFR-J の収録語を全部覚えたとしても、学習者向け英字新聞であっても、「適切な」読みは難しいことが、出現頻度においても明らかになった。

CEFR-J 収録語以外の語の特徴

CEFR-J の収録語以外の語の特徴は、低頻度語が圧倒的に多いということである。低頻度語でかつ正式語や専門用語などであると言えるので、学習者には相当難しい語が大半を占めていることがわかった。このことは、ある意味当然で、学習者向け語彙リストであるので、様々な題材の中で数多く出現する語をリスト化するわけである。その編纂作業には莫大な時間を要するので、新語が含まれないことも当然と言える。

しかし、中には、日本で出版されている主要な英和辞典や LDOCE などの英英辞典で重要語と定義されている語も収録語以外の語の中に意外と多く含まれている。LDOCE の6,000語には含まれないが、日本で出版されている主要な英和辞典には重要語と定義されている語も散見された。このような重要語は、学習者の今まで学習経験の中で遭遇したり、覚えたりした経験がある語も含まれている可能性は大いにある。また、新語は学習者が日常で遭遇する可能性がある。そうした語を差し引けば、学習者にとっての実際の未知語の数はある程度減る可能性が高く、上記の2つの節で述べた今回の調査から見た CEFR-J の語彙カバー率は多少上がるものと予測される。それにしてもなお、「最適な」語彙カバー率と言える99%には程遠いのである。

教育上の示唆

今回の調査で、A1からB2及びそれ以外の語の分布状況と同様に、出現頻度も記事内容や日にちの違いによる差が見られないということがわかった。頁によって差が生じることはあるが、一日分を通してみると、レベル別分布状況や出現頻度に大きな違いがないということである。従って、教材や課題として学習者に提示する場合に、日にちのことを気にすることなく提示することができることがわかった。もちろん、頁による違いがあるので、指導している学習者の実態に応じた教材や課題の選定が必要である。

また、CEFR-J の有効性を見ると、レベル別分布状況からは、CEFR-J の収録語の語彙カバー率は約88-90%ということが、レベル別出現頻度からは、94.7-96.0%ということが、それぞれわかった。学習者向け英字新聞という割には、語彙カバー率が予想外に低く、平均値を見ると、一般紙の英字新聞とそれほど大きな違いがないことがわかった。このことから、学習者向けだということで、学習者に英字新聞の記事を何の処置もしないで提示することは、学習者に負担を与えることになるので避けなければならないと言えよう。

具体的な処置の例としては、本研究で用いたように、学習者向け英字新聞をスキャナーで取り込み、Word ファイルとしてから、B2や CEFR-J の収録語以外の語を、指導している学習者の実態に応じて別の語に書き換えたり、八島 (2013, 2020c) で行ったように、学習者にとって難

しいと判断した語の真上に日本語の訳語をつけたりする方法が考えられる。後者の方法であれば、注釈を見ることで起こる読みの中断をある程度防ぐことができると思われる。B2やCEFR-Jの収録語以外の語でA1やA2の語に書き換えが可能な語は積極的に書き換えて、両者を併用することで、読みの中断がなるべく起こらないようにすることができる。このような処置をすることで、CEFR-Jの語彙カバー率を99%にすることができれば、学習者にとって理想的な読みの教材になると思われる。学習者はそのように工夫された補助教材を多読することで速読の訓練を積むことができるであろう（付録C）。

最後に、CEFR-Jの収録語以外の語の中には、日本で出版されている主要な英和辞典やLDOCEなどの英英辞典で重要語と定義されている語が含まれていることがわかった。CEFR-Jの収録語を中心として、検定教科書やテキスト、学習者向け英字新聞などの補助教材で出現頻度がある程度高い語も、CEFR-Jの収録語以外の語であっても、英和辞典やLDOCEなどの英英辞典で確認をして、重要語と定義されている語であれば、積極的に指導すべきであろう。

今後の課題

今回、CEFR-Jの収録語と学習者向け英字新聞の使用語彙との対応を調査し、CEFR-Jの有効性に疑問が残る結果となった。しかし、対象が一社の学習者向け英字新聞に過ぎず、その結果を受けて、CEFR-Jの有効性は疑問であると断言することはできないと言えよう。今後、少なくとも、もう一社の学習者向け英字新聞の調査をした上で、CEFR-Jの有効性に関する判断を下す必要があると考える。

謝辞

本研究は、令和2年度～令和6年度科学研究費（基盤研究（C）・課題番号：20K00881・研究代表者：八島等）の助成を受けて行われた研究の一部である。

注

本稿は、JACET第61回国際記念大会（オンライン開催）及び、日本教科教育学会第48回全国大会（愛媛大学）において発表した内容に加筆・訂正をしたものである。

引用・参考文献

- Carver, R. P. (1994). Percentage of unknown vocabulary words in text as a function of the relative difficulty of the text: Implications for instruction. *Journal of Reading Behavior*, 26(4), 413–437.
- Hirsh, D., & Nation, I. S. P. (1992). What vocabulary size is needed to read unsimplified texts for pleasure? *Reading in a Foreign Language*, 8(2), 689–696.
- Hu, M., & Nation, I. S. P. (2000). Unknown vocabulary density and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*, 13(1), 403–430.
- Laufer, B. (1989). What percentage of text lexis is essential for comprehension? In C. Lauren & M. Nordman (Eds.), *Special language: From humans thinking to thinking machines* (pp. 316–323). Multilingual Manners.
- Laufer, B. (1992). How much lexis is necessary for reading comprehension? In H. Bejoint & P. Arnaud (Eds.), *Vocabulary and applied linguistics* (pp. 126–132). Macmillan.
- Laufer, B., & Ravenhorst-Kalovski, G. C. (2010). Lexical threshold revisited: Lexical text coverage, learners'

- vocabulary size and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*, 22(1), 15–30.
- Liu Na, & Nation, I. S. P. (1985). Factors affecting guessing vocabulary in context. *RELC Journal*, 16(1), 33–42.
- Nation, I. S. P. (2001). *Learning vocabulary in another language*. Cambridge University Press.
- Nation, I. S. P. (2006). How large a vocabulary is needed for reading and listening? *The Canadian Modern Language Review*, 63, 59–82.
- Nation, I. S. P., & Beglar, D. (2007). A vocabulary size test. *The Language Teacher*, 31(7), 9–13.
- Nation, I. S. P., & Coady, J. (1988). Vocabulary and reading. In R. Carter & M. McCarthy (Eds.), *Vocabulary and language teaching* (pp. 97–110). Longman.
- Nation, I. S. P., & Waring, R. (1997). Vocabulary size, text coverage and word lists. In N. Schmitt & M. McCarthy (Eds.), *Vocabulary: Description, acquisition and pedagogy* (pp. 6–19). Cambridge University Press.
- Schmitt, N., Jiang, X., & Grabe, W. (2011). The percentage of words known in a text and reading comprehension. *The Modern Language Journal*, 95(1), 26–43.
- Schmitt, N., Schmitt, D., & Capham, C. (2001). Developing and exploring the behavior of two new versions of the Vocabulary Levels Test. *Language Testing*, 18(1), 55–88.
- Yashima, H. (2001). Word inference ability in Japanese EFL learners. *ARELE*, 12, 101–110.
- Yashima, H. (2002). Factors affecting guessing unknown word meanings from context. *ARELE*, 13, 151–160.
- Yashima, H. (2003). Analysis of senior high school students' ability to guessing unknown word meanings from context. *ARELE*, 14, 161–170.
- 東京外国語大学投野由紀夫研究室 (2013). 『CEFR-J Wordlist Version 1.0』.
- 東京外国語大学投野由紀夫研究室 『CEFR-J Wordlist Version 1.6』. (URL:http://www.cefr-j.org/download.html#cefrj_wordlist より2020年12月8日ダウンロード)
- 投野由紀夫 (2013). 『英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』 大修館書店.
- 羽島博愛 (1979). 「リーディングテスト作成上の留意点」 羽島博愛・浅野博・伊村元道・大井上滋・大友賢二・清川英男 (編) 『英語指導法ハンドブック④評価編』 (pp. 107–121) 大修館書店.
- 八島等 (1996). 「検定教科書での未知語の推測」 『語学教育研究所紀要』 10, 35–42.
- 八島等 (1999). 「未知語の割合と文脈からの意味の推測の関係及び推測に影響を与える他の要因」 『語学教育研究所紀要』 13, 31–49.
- 八島等 (2013). 「文脈からの推測のための最適な割合と語彙サイズを求めて」 『日本教科教育学会第39回全国大会論文集』, 106–107.
- 八島等 (2015). 「日本人英語学習者における語彙カバー率と読解との関係」 『日本教科教育学会第41回全国大会論文集』, 138–139.
- 八島等 (2016). 「これからの日本人英語学習者が習得すべき語彙の実態」 『日本教科教育学会第42回全国大会論文集』, 46–47.
- 八島等 (2019a). 「CEFR-J から見た高等学校の改定版検定教科書の語彙の実態 (3)」 『日本教科教育学会第45回全国大会論文集』, 204–205.
- 八島等 (2019b). 「CEFR-J から見た高等学校の改定版検定教科書の語彙の実態」 『広島文教大学紀要』 54, 65–74.
- 八島等 (2020a). 「CEFR-J の英字新聞に対する有効性の一研究」 『日本教科教育学会第46回全国大会論文集』, 85–86. https://drive.google.com/drive/folders/1qUOLzVqXD5qjcMDqFYjUITiq3_h8iCui?usp=sharing
- 八島等 (2020b). 「CEFR-J は英字新聞に対してどの程度有効か」 第3回 JAAL in JACET 学術交流集会発表資料.
- 八島等 (2020c). 「文脈からの推測のための最適な割合と語彙サイズを求めて」 『広島文教大学紀要』 55, 1–12.
- 八島等 (2021a). 「英字新聞に対する CEFR-J の有効度に関する研究」 JACET 第60回国際記念大会発表資料.
- 八島等 (2021b). 「出現頻度から見た CEFR-J の英字新聞に対する有効性」 『日本教科教育学会第47回全国大会論文集』, 143–144. <https://drive.google.com/file/d/1fa7IGMdeFV8q6RETj0Wfnym8vzz1B6Y1/view?usp=sharing>
- 八島等 (2022a). 「学習者向け英字新聞に対する CEFR-J の有効度に関する研究」 JACET 第61回国際記念大会発表資料.
- 八島等 (2022b). 「出現頻度から見た CEFR-J の学習者向け英字新聞に対する有効性」 『日本教科教育学会第48回全国大会論文集』, 133–134. https://drive.google.com/file/d/1ETtlc-bymsDv8Qbw7Pxpjq_TaYnjG34b/view?usp=sharing

CEFR-J の学習者向け英字新聞に対する有効性の研究

付録 A : The Japan Times 6日分の CEFR-J のレベル別分布状況

表 1

The Japan Times 10月19日分の CEFR-J のレベル別分布状況 (八島, 2021b)

	CEFR-J 収録語	品詞違い語	派生語	合計	割合 (%)
A1	603語	13語	17語	633語	21.04
A2	552語	16語	24語	592語	19.68
B1	664語	17語	65語	746語	24.80
B2	436語	20語	35語	491語	16.32
それ以外の語				546語	18.15
合計	2,255語	66語	141語	3,008語	

表 2

The Japan Times 10月20日分の CEFR-J のレベル別分布状況 (八島, 2021b)

	CEFR-J 収録語	品詞違い語	派生語	合計	割合 (%)
A1	641語	28語	26語	695語	22.18
A2	580語	30語	42語	652語	20.80
B1	668語	23語	86語	777語	24.79
B2	466語	40語	63語	569語	18.16
それ以外の語				441語	14.07
合計	2,355語	121語	217語	3,134語	

表 3

The Japan Times 10月21日分の CEFR-J のレベル別分布状況 (八島, 2021b)

	CEFR-J 収録語	品詞違い語	派生語	合計	割合 (%)
A1	642語	20語	26語	688語	20.67
A2	586語	19語	55語	660語	19.83
B1	739語	26語	83語	848語	25.48
B2	481語	36語	80語	597語	17.94
それ以外の語				535語	16.08
合計	2,448語	101語	244語	3,328語	

表 4

The Japan Times 10月22日分の CEFR-J のレベル別分布状況 (八島, 2021b)

	CEFR-J 収録語	品詞違い語	派生語	合計	割合 (%)
A1	670語	29語	48語	747語	20.76
A2	625語	23語	49語	697語	19.37
B1	792語	21語	90語	903語	25.09
B2	524語	26語	94語	644語	17.89
それ以外の語				608語	16.89
合計	2,611語	99語	281語	3,599語	

表 5

The Japan Times 10月23日分の CEFR-J のレベル別分布状況 (八島, 2021b)

	CEFR-J 収録語	品詞違い語	派生語	合計	割合 (%)
A1	652語	22語	31語	705語	21.13
A2	592語	33語	42語	667語	19.99
B1	736語	30語	75語	841語	25.21
B2	469語	36語	62語	567語	17.00
それ以外の語				556語	16.67
合計	2,449語	121語	210語	3,336語	

表 6

The Japan Times 10月24日分の CEFR-J のレベル別分布状況 (八島, 2021b)

	CEFR-J 収録語	品詞違い語	派生語	合計	割合 (%)
A1	669語	23語	30語	722語	19.96
A2	641語	32語	56語	729語	20.15
B1	806語	23語	92語	921語	25.46
B2	516語	30語	72語	618語	17.08
それ以外の語				628語	17.36
合計	2,632語	108語	250語	3,618語	

付録 B : The Japan Times 6日分の CEFR-J のレベル別出現頻度

表 7

The Japan Times 10月19日分の CEFR-J のレベル別出現頻度 (%) (八島, 2021b)

	最低値	最高値	平均値
A1	55.22	68.32	60.15
A2	11.05	16.27	13.97
B1	9.28	13.56	11.55
B2	4.84	9.26	6.02
それ以外の語*	5.25	9.83	8.32

注. *それ以外の語の中には品詞違い語や派生語が含まれている。

表 8

The Japan Times 10月20日分の CEFR-J のレベル別出現頻度 (%) (八島, 2021b)

	最低値	最高値	平均値
A1	57.23	69.13	60.90
A2	11.88	14.48	14.48
B1	9.84	13.45	11.45
B2	5.33	8.17	6.66
それ以外の語*	6.39	9.73	7.70

注. *それ以外の語の中には品詞違い語や派生語が含まれている。

表 9

The Japan Times 10月21日分の CEFR-J のレベル別出現頻度 (%) (八島, 2021b)

	最低値	最高値	平均値
A1	58.66	68.01	61.21
A2	11.14	16.39	13.99
B1	9.98	12.95	10.92
B2	4.15	9.13	6.32
それ以外の語*	5.75	8.74	7.55

注. *それ以外の語の中には品詞違い語や派生語が含まれている。

表10

The Japan Times 10月22日分の CEFR-J のレベル別出現頻度 (%) (八島, 2021b)

	最低値	最高値	平均値
A1	57.53	67.16	60.26
A2	11.78	16.74	14.25
B1	8.97	14.00	11.33
B2	4.95	8.11	5.94
それ以外の語*	6.39	12.31	8.21

注. *それ以外の語の中には品詞違い語や派生語が含まれている。

表11

The Japan Times 10月23日分の CEFR-J のレベル別出現頻度 (%) (八島, 2021b)

	最低値	最高値	平均値
A1	56.90	72.59	61.24
A2	11.42	18.14	14.13
B1	9.30	14.68	11.23
B2	2.67	8.53	5.81
それ以外の語*	4.87	9.33	7.60

注. *それ以外の語の中には品詞違い語や派生語が含まれている。

表12

The Japan Times 10月24日分の CEFR-J のレベル別出現頻度 (%) (八島, 2021b)

	最低値	最高値	平均値
A1	55.31	71.15	60.93
A2	11.72	16.39	14.34
B1	8.07	13.56	11.11
B2	3.46	7.48	6.07
それ以外の語*	4.87	9.33	7.54

注. *それ以外の語の中には品詞違い語や派生語が含まれている。

付録 C : 調査で用いた Passages A (無意味語の後に元の語を提示) (八島, 2013, 2020c)

In the big city of New York, adventure^{冒険} is always waiting. At every corner, eyes look^{を探し回る} around us, or fingers are pointed at us. Adventure is there. But few of us ever see it.

Rudolf Steiner was a true (1) tampender (adventurer). There were few evenings when he did not go out looking for something different. He was always interested in what might be waiting around the next corner.

One evening Rudolf was walking slowly along a street in the older part of the city. Many people were walking along the street that night. Some were going home. Others were going to have dinner at some restaurant.

He passed a busy restaurant and saw next to it an open door. Above the door was a (2) hesument (sign) for a doctor's office. A very large man stood at the door. He was (3) santaring (offering) cards to those who passed by. Rudolf had seen such people before. The card would show the name of the doctor in the office on the third floor. Rudolf took it quickly without looking at it.

When he had walked on further, he looked at the card. He was surprised. He turned it over and looked again with interest. On one side there was (4) modendation (nothing). On the other side were three words: "The Green door."

Three steps beyond, another man threw^{を捨てた} down the card he had received. Rudolf (5) finemined (picked) it up. There was the doctor's name, with the street and number. This was what Rudolf had (6) kindemed (expected) to find on his own card. Rudolf turned around and walked past the doctor's office again. The man handed him another card. Once again the card read, "The Green Door." Three or four other cards were (7) yoleaking (lying) in the street. People had thrown^{を捨てた} them away. He looked at them. Every one had the doctor's name on it.

Rudolf went back to where he had received the card and looked^{を見上げた} up at the building. He believed that adventure was calling him. There was a small restaurant on the first floor. On the second floor were rooms where people lived. Above that was the doctor's office.

Rudolf entered the building and walked up to the second floor. He looked around and saw a green door. He walked straight to the green door and (8) nuroved (knocked) loudly. He heard a soft sound and then the door opened slowly. A girl not yet twenty stood there.

(397 words from *CROWN English Series I*)

—2022年9月30日 受理—